

重点目標 (令和7年度)	・学ぶ意欲の喚起を目指した授業研究の推進 ・自己有用感、自己肯定感の醸成 ・興味関心を持つ活動を基盤とした生徒の育成 ・情報発信の充実 ・教職員の多忙化解消と心身の健康の保持増進		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	・学校と保護者の連携 ・防災体制の確認と災害時体制の確立	・学校諸行事参加者を増やす。 ・保護者のニーズに合った行事を設定する。 ・授業参観を充実させる。 ・大規模災害時に対応ができるように、実践形式の防災教育を構築する。	・PTA総会・体育祭・文化祭等の行事に保護者が参加しやすい環境づくりに向けて、分掌間の連携を強化して取り組む。 ・授業参観について開催方法を検討し、参加した保護者が満足できるよう、充実した行事とする。 ・日頃からの防災意識を高め、防災訓練を通じ、大規模災害時に迅速かつ的確な行動ができるよう、より実践に近い方法を検討する。防災教育の充実を図り、より減災になるよう努める。
学習指導 (教務部) (各教科会)	・主体的に学習に取り組む態度及び課題解決能力の育成	・基礎的、基本的な知識や技能の習得のための学習意欲を高める授業を確立する。 ・実習や授業規律を確立する。 ・校内におけるカリキュラムを見直す。	・自ら学ぶ姿勢をつくるため、学習目標と評価基準を明確に伝える。また、授業内容を工夫して、わかる授業を展開し、生徒に自分にとって有意義であったと思わせる。 ・教科学科やHR正副担任及び分掌が、保護者とも連携して、実習や授業規律の確立を図る。 ・入学する生徒の変化や観点別評価の変化に対応し、教育課程表を見直す。
生徒指導 (生徒指導部)	・基本的生活習慣や社会人としてのマナーの育成および確立	・基本的生活習慣を身に付けさせる指導を行う。 ・挨拶、遅刻、交通安全の三つを重点とした指導を行う。 ・人権を考慮した校則を見直す。 ・いじめを許さない環境をつくる。	・生徒指導をするのが生徒指導部の役割ではなく、各職員の生徒指導が円滑かつ確実に行えるような協力体制の構築を目指す。各学年会、各学科、全教職員と保護者との連携を図り、段階を経た生徒指導をしていく。 ・遅刻、挨拶の励行、声かけ等を行い、時間および期限の厳守を意識づける。 ・自転車のマナーの向上のため、地域との連携を図り交通関係団体との連携を図りながら、登下校の交通安全、交通マナーの向上を目指す。 ・職員にとどまらず、生徒、保護者、企業など幅広く意見を聞き入れながら、春日井工科高校に求められる校則作りを目指す。 ・担任や各分掌と連携をとり、生徒の状況を把握し適切な対応を取れるように体制を整える。

進路指導部	・3年間を通じての系統立てた進路指導の実践	・進路指導目標と指導手順を明確化させる。 ・進路全般について、十分な事前把握と情報共有をする。 ・内規、資料（キャリアパスポート、進路の手引き等）の活用をする。	・1年次から目的に沿った行事を策定し、系統立てた進路指導を行う。職員間の共通理解を図り、生徒（保護者）へ十分周知する。 ・進路の手引き（キャリアパスポート）を活用し、進路希望状況を把握する中で、選科指導・進路指導・進路相談を実施する。 ・進学・公務員希望者の進路指導は、校内外の協力を得ながらサポートしていく。
保健部	・支援の必要な生徒に対する家庭・学校間の連携と速やかな対応 ・受診勧告者の受診率向上 ・清掃活動の充実	・保護者からの聞き取りおよび状況の把握とスピーディーな支援方法の策定および職員への周知をする。 ・学年団と連携した受診勧告指導の実施をする。 ・要受診者へ個別指導の徹底を図る。 ・日々の清掃活動を通して掃除の大切さの周知を図り、今一度ゴミの分別回収についても意識を高める。	・特別支援委員会、教科担当者会において、合理的配慮や手助けを必要とする生徒・保護者の考えを尊重し、個々に合った適切な支援計画を立案する。支援に当たっては、周知の方法等をケースごとに検討し、保護者・生徒の理解を得て指導にあたる。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの情報共有をより密にし、生徒への支援充実につなげる。 ・学年や担任と連携した受診指導を徹底する。特に受診率の低い眼科、歯科について受診率の向上を目指す。 ・要受診者に対し面談を行い、受診の大切さを論じ生徒の意識変化を促す。その結果により、受診率の向上につなげる。 ・自分たちの学習・生活環境を自ら整える意識の向上を図る。ペットボトル・飲料缶・ビンなどの分別回収を高めていく。
図書部	・図書館利用の充実 ・視聴覚関係教室の整備と活用推進	・図書館内の整備及び図書館利用促進のための情報発信を進める。 ・図書選定のための幅広い情報収集をする。 ・視聴覚関係教室・視聴覚教材等の整備、充実を図る。 ・図書委員会の活動の充実をする。	・図書館利用者数の増加に向け「より魅力的で利用しやすい図書館・視聴覚教室」の整備を目標とする。 ・雑誌、新聞やインターネット等で幅広く情報収集することにより、時勢を反映し偏りのない図書選定に心がける。 ・図書の購入希望について、各学科・教科に積極的に働きかける。 ・「図書館だよりの作成」や「図書館カウンター当番」等の仕事を通じて図書委員の活躍の場を更に充実させる。
生徒会部	・生徒会活動の活性化	・教室掲示や校内放送を利用し、広く情報を生徒に伝える。 ・生徒の意見を積極的に取り入れ、興味・関心を強く持たせる。 ・部活動の活性化を図る。	・部活動の生徒が偏り無く果たせるよう分担する。 ・計画的に無理なく行事の準備が進むよう助言する。 ・生徒の意欲的な意見を無駄にしないよう配慮しながらも、学校の教育方針を外れないようにする。
工務部	・キャリア教育の推進 ・専門教育への興味関心を高める取組（広報活動）の推進 ・安全教育の拡充	・キャリア教育を行うために、2年生では各種推進事業を積極的に利用し、インターンシップ等への参加機会を増やす。 ・中学校体験入学を充実させる。 ・学校の施設設備を活用した公開講座等の実施や情報発信により、ものづくり教育の魅力を伝える。 ・安全教育に対し、意識の見直しや体験を通して、安全教育の拡充を図る。	・「未来を生き抜く人材育成事業」等の公的事業を積極的に活用して、インターンシップの受入企業の開拓など充実を図る。 ・中学校教員向けの講習や中学生、小学生を対象としたものづくり教室を企画し地域に開かれた学校づくりを行う。併せて、保護者にも専門（工業）教育への理解を深めてもらう機会を模索する。 ・企業と連携し、体験学習やアドバイザーの設置を行い、安全教育の改善と見直しを図る。
ロボット工学科	- 地域から求められる技術者の育成 ・教員の指導力向上と実践的なものづくりの奨励	・ロボットシステムインテグレータの育成を進める。 ・国家資格技能検定シーケンス制御種目（シーケンス制御作業）の指導を通じて、現場で求められる技術者の育成を目指す。 ・実習や課題研究のテーマを実践的な技術や技能を身に付けさせるものに設定する。また、指導の中で教員が生徒と共に学ぶ姿勢を持つ。	・産業用ロボット実習装置を中心に、シーケンス制御実習、FA実習、協働ロボット実習の制御系実習を中心に、機械系・電気系実習を組み合わせ、ロボットシステム構築のための基礎技術を身に付ける。 ・高校生ロボットSIリーグの参加を通して、実践的な技術を身に付ける。 ・国家資格技能検定シーケンス制御種目（シーケンス制御作業）等の資格取得について、普段から呼びかけや周知をはかり、生徒の主體的な行動を促しながら学習意欲の向上につなげることで、実践的な技術を身に付けた地域に必要とされる技術者を育成する。 ・1年次の工業技術基礎のリレーシーケンスに始まり、2年次のシーケンス制御実習とファクトリーオートメーション実習、協働ロボット実習を経て、3年次のロボットシステム実習、電子工作実習までの制御系実習を中心に、機械加工や電気工事などの基礎実習を通して、課題研究における探究へ至る道筋をつくり、教員と生徒が試行錯誤しながら、新たな技術・技能を身に付ける。

機械科	・規範意識、帰属意識、自己統制力を高める指導の実践（社会人基礎力の育成） ・基礎学力の向上、ものづくりに関する基本的な知識・技能の習得	・教員自ら実践する（率先垂範）。 ・生徒との人間的な関わりを深める。 ・個々の生徒に応じた指導をする。 ・実習集合時の整列点呼及び身だしなみを徹底する。 ・教員、生徒ともに日々の授業を大切にする意識を醸成する。 ・授業改善を目指す。	・学科内での指導基準を確立し、身だしなみ、授業態度について改善が必要な場合、些細なこともその場で指導する。繰り返しきめ細かい指導を徹底し、教員間で共通理解を深める。 ・「日々の授業を大切にする＋人間性の向上」をキーワードとして、生徒が自ら進んで学習しようとする意欲を定着させる。そのための方策として、学習内容、検定補習などにおいては到達可能かつ具体的な目標を設定する。また、昨年度に引き続き、生徒同士がお互いに教え合い、学び合うことのできるアクティブ・ラーニング環境を整備する。 ・より深い学びの場を資格・検定補習、競技大会の参加を通じて提供する。外部講師による指導を本年度も取り入れ、より質の高い技術・技能の習得を目指す。
電気科	・電気の基礎的な技術・技能を習得させるため、学習に意欲的に取り組む姿勢の育成	・基本的な生活習慣と学習態度の向上を目指すため、資格取得や課題研究を通して、一人ひとりに達成できる目標をもたせる。	・電気の基礎資格の取得により、生徒に自信を付けさせ、更に上位資格に挑戦しようとする気持ちをもたせることを目標とする。 ・2年生の座学・実習においては、第二種電気工事士の合格水準を目標に知識・技能の定着を図る。 ・3年生の課題研究においては、生徒の自主性と責任感の育成を目指し、実習を展開していく。また、結果重視だけではなく、生徒の取組姿勢や活動状況に重きをおいた評価方法を実践していく。
電子工学科	・生徒が主体的に学べる体制づくり ・ものづくり教育の充実 ・生活コースの充実	・生徒が主体的に学ぶための授業環境づくりの推進を図る。 ・進路に対する意識の向上を図る。 ・家庭科や外部と連携を密にし、生徒に対して幅広い学びの場を提供する。	・基本的な知識を定着させ、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れることで、生徒自身が自ら考える姿勢を育成する。 ・学習活動を通して働くことへの意識を高め、自ら目標を設定し明確にすることで、生徒の学習意欲を向上させる環境を整える。 ・ものづくり教室を生徒が主体となり運営し、小・中学生に対し自らが身に付けた知識や技術を発揮できる場を提供する。 ・ものづくりや授業後の自主学習ができる環境を提供する。 ・学びの延長として資格取得を目標にした教育システムを構築し、生徒の目的意識を高めるとともに成功体験を積ませる。 ・授業において月に1回程度、企業・公共団体に講師を依頼し、指導をいただくことで、働くことと生活のバランス（ライフワークバランス）のとれた人材の育成を目指す。
1年	・工業高校生としての自覚をもった生徒の育成	・基本的な生活習慣や授業規律の確立を図る。 ・HRや学年の全体指導で心を育てる大切さを伝える。 ・部活動への定着率を高める。	・時間や提出期限を厳守させる。 ・誰に対しても大きな声で挨拶ができるようにする。 ・身だしなみを徹底させる。 ・教科担任と連携し、授業規律の確立を図る。 ・課題やレポート等の提出期限を厳守させる。 ・部活動の意義や継続することの大切さについて指導する。
2年	・進路実現に向け、自己の能力の向上と主体性のある姿勢の育成	・校訓である「心を育て、自らを琢く」をもとに、自ら考え、行動できる人間を育てる。 ・1年後の進路を意識して、望ましい職業観を育成する。	・日々の生活や授業、定期考査、校外学習、修学旅行といった諸活動を通じ、より良い選択をすることができるよう常に考えて行動することを意識させ、実践有無を振り返りをさせる。 ・自らの将来について考える機会を設け、将来に向けた必要な準備を明確にさせる。併せて、望ましい職業観育成のため、社会を取り巻く環境を伝える。
3年	・社会人として自立（自律）できる生徒の育成	・全体指導やHR活動を通じ、健全な社会人としてのあり方を指導する。 ・将来の生き方を考えさせ行動する習慣を身に付けさせる。 ・進路決定までは、業後に基礎学力補習を実施する。	・最高学年としての自覚をより高め、あらゆる場面において責任ある行動をとることができるよう指導する。 ・進路指導部と連携を密にし、生徒が積極的かつ主体的に行動し適切な進路選択ができるように、個別面談を適宜行う。 ・校内での生活指導を通し、社会人としてのルールやマナーを教え、人と人のコミュニケーションの取り方等を指導する。 ・就職が厳しくなることが予想されるので、毎日学習する態度を習慣化させる。
学校安全衛生	・時間外勤務の削減 ・業務ストレスの軽減	・月1回の定時退校日を設定する。 ・学期に1回のストレス軽減プログラムを計画する。	・月に1回の現職研修を定時退校日と同一日に設定し、研修後に一斉退校を促す。 ・長期休業中は、原則的に毎日定時退校日とする。 ・年休や割り振り変更等の休暇利用の促進に努める。 ・教職員のメンタルヘルスを維持し、学期に1回の校内スポーツ大会を計画する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		1 保護者や中学校、地域住民等の方に説明責任を果たしながら理解と協力を得て、開かれた校づくりができたか。 2 教育目標への取組と成果を評価することにより、学校が組織的・継続的な改善を図ることができたか。 3 教育環境の整備や改善措置により、教育水準の保証や向上を図ることができたか。 4 家庭、地域、関係機関等との緊密な連携を図り、いじめの未然防止、早期発見、適切な措置等について組織的に取り組み、いじめのない学校づくりができたか。	